

	群馬大学 医学系分野
学部・研究科名	医学部（第1年次：108 第2年次：15） ※医学科を記載。 医学系研究科（M：15 D：57） 生体調節研究所
沿革・設置目的	医学に関する教育・研究を行うことを目的に、前橋医学専門学校、官立前橋医科大学を経て、昭和24年（1949年）群馬大学医学部として設置された。 昭和24年（1949年） 群馬大学設置と同時に医学部設置 昭和30年（1955年） 大学院医学研究科設置（平成13年（2001年）に医学系研究科に改称） 昭和38年（1963年） 内分泌研究所設置（平成6年（1994年）に生体調節研究所に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行 平成22年（2010年） 生体調節研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
強みや特色などの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 群馬大学の理念等に基づき、県内の地域医療の向上に貢献しつつ国際社会にも寄与できる医師・医学研究者の養成を積極的に推進する。 ○ 重粒子線治療や内分泌・代謝学、薬剤耐性菌、脳科学研究などを始めとする、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 国内の大学病院で唯一の重粒子線治療を始めとする先進医療やがん治療の実施実績を活かし、高度・先進医療を積極的に推進する。 ○ 臨床研究中核病院として、国際水準の質の高い臨床研究や難病等の医師主導治験を推進するための中心的な役割を果たし、日本の医療水準の向上及び日本発の医療イノベーション創出を目指す。 ○ 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や都道府県がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院、第一種・第二種感染症指定医療機関等としての取組を通じて、群馬県における地域医療の中核的役割を担う。